

平成21年2月26日	千葉県畜産会館	1) 千葉県豚共進会と今後の対応について 2) 千葉県種豚オークション終了報告と今後の対応について 3) 肉豚価格差補てん事業について 4) オーエスキー病清浄化対策の取組について 5) 原種豚農場の認定について 6) エコフィードの取組みと利用について 7) 平成 21 年度畜産物価格決定に係る要請 8) ナイスポークチバ推進協議会の活動について 9) 養豚振興委員の辞任及び補充について 10) その他
------------	---------	---

(8) エコフィード利用推進委員会

期 日	場 所	内 容
平成20年10月23日	千葉県畜産会館	1) エコフィードに関する国及び県事業の概要について 2) 千葉県におけるエコフィードの進捗状況について 3) エコフィード飼料試験の報告と農家における利用について 4) 飼料化施設「フジエコフィード飼料化施設」の概要について 5) 銘柄豚「ダイヤモンドポーク」の生産・販売・評価について 6) 銘柄豚「ダイヤモンドポーク」の試食について
平成21年3月26日	千葉県畜産会館	1) 千葉県におけるエコフィードの推進状況について 2) エコフィード飼料給与試験について 3) 農家における利用状況について 4) 消費者への理解醸成への取組みについて 5) これからのエコフィード利用拡大への取組みについて 6) その他

(9) 定例会議

原則として、毎月末に常勤役職員による定例会議を開催し、翌月以降の事業の計画的な推進と進捗状況の確認及び業務の円滑化・効率化に務めた。

I 畜産経営を支援する事業

1 地域畜産支援指導等体制強化事業（地方競馬全国協会）

地方競馬全国協会からの補助金を得て、① 畜産の担い手育成・確保・増強に向けた体制強化を図る事業、② 地域畜産に対する理解増進等畜産関連公益活動体制の強化を図る事業、③ 地域団体との連携協調体制の基盤強化を図る事業、④ 地域一体型事業モデル等の創出を図る事業の推進を図った。

2 畜産コンサルタント等設置事業（県）

畜産経営の経営改善を図るため、組織活動支援を含めた経営改善指導を実施した。

3 会報誌編集発行事業（協会単独）

畜産の生産から流通・消費に関する最新情報を、協会の情報誌「畜産ネットワークちば」を4回（第11号～14号、各号900部）発行し、協会ははじめ関係機関、団体に配布し、畜産経営の支援等に資した。

4 地域畜産総合支援体制整備事業（畜産振興総合対策）（県）

畜産経営の安定化に資するため、県及び関係機関・団体の協力を得て、畜産経営体に対する支援指導を行った。

（1）コンサルタント団員の設置

区 分	総括畜産 コンサルタント	畜 産 コンサルタント	非常勤畜産 コンサルタント	指導員
人数（名）	6	5	32	12

（2）畜産経営体支援指導研究会

畜産経営技術等の支援指導・畜産経営状況調査を効果的に行うための具体的な指導内容・手法等を検討する総合委員会及び専門委員会を下記のとおり開催した。

ア 総合委員会：平成20年7月29日

イ 専門委員会：平成20年4月25日 平成20年5月15日
平成20年5月22日 平成20年5月27日
平成20年5月28日 平成20年6月30日
平成20年7月29日

（3）畜産経営技術指導用機器の整備

畜産経営体の支援指導を効果的かつ効率的に行うためのコンピュータ関連機器の整備等を行った。

(4) 畜産経営技術の支援指導

畜産経営体等からの要請内容・経営水準・実態等に応じ、経営改善のための効果的な支援指導を次のとおり実施した。

① 個別支援指導

畜産経営体に対する経営診断改善指導・経営管理技術指導・生産技術指導・フォローアップ指導等を下記のとおり実施した。

項 目	経営診断 改善指導	経営管理 技術指導	生産技術 指 導	フォロー アップ指導	計
戸数 (戸)	9	6	23※	10	33
件数 (件)	18	12	46	30	106

注1：戸数は、23※中に診断と管理と生産について、各々重複指導あり。

② 地域支援指導

畜産経営技術に関する研修・意見交換等を行う場としての経営セミナー等を10回開催し、地域の経営体集団に対して経営改善のための支援を行った。

指 導 実 績	期 日	開催場所	人 数	内 容
1. 養豚講習会	20年5月21日	旭 市	66人	(海匝地域畜産振興協議会との共催) ●人と豚病の関わり方について 昨今のPRDCを考える あかばね動物クリニック (獣医師) ●豚オーエスキー病の清浄化について 東部家畜保健衛生所 ●総合討議
2. 酪農経営 向上研修会	20年6月5日	成田市	60人	●酪農業界の現状と展望について 野沢組 中込 稔氏 ●堅実な経営に求められる管理技術について 川田獣医科医院 川田隆作獣医師
3. 養豚講習会	20年7月11日	香取市	88人	(香取地域農林業振興協議会との共催) ●グループシステム導入によるPRRS、 PMWSを中心とする豚慢性疾病のコントロール (有) バリューフาร์ม・コンサルティング 呉 克昌氏 ●各農場の現状とグループシステム導入の可能性 座長 北部家畜診療所 矢光 潤 獣医師 パネラー 飯田伴雄氏 鈴木治彦氏 角田和宣氏 成毛憲司氏 伊藤尚志 獣医師
4. 耕畜連携 推進研修会	20年8月25日	東金市 横芝光町	128人	(山武地域農林業振興協議会との共催) ●稲ホールクロップサイレージの収穫・調整等に係る 現地研修会 東金市内の稲WCS作付圃場 横芝光町の稲WCS作付圃場 講師 千葉県畜産総合研究センター 企画環境部環境飼料研究室 細谷肇 主席研究員 生産技術部乳牛牛肉牛研究室 石崎重信室長
5. 耕畜連携 推進研修会	20年8月26日	袖ヶ浦市	41人	(君津地域畜産振興協議会との共催) ●稲ホールクロップサイレージの収穫・調整等に係る 現地研修会 袖ヶ浦市内の稲WCS作付圃場 袖ヶ浦市農業センター講習室

6. 耕畜連携 推進研修会	21年2月10日	旭 市	59人	(海匠、香取地域畜産振興協議会との共催) ●肥育牛経営における飼料米給与技術 長野県 伊藤 達也氏 ●千葉県における自給飼料の取り組みと 飼料専用品種の特性等について 畜産総合研究センター 石崎 重信 室長 鈴木 一好 主席研究員 細谷 肇 主席研究員 ●公庫資金の活用について 日本政策金融公庫千葉支店長
7. 畜産講習会	21年3月1日	君津郡市	79人	(君津地域畜産振興協議会との共催) ●奥野牧場(酪農)の視察 ●西野養鶏場の視察 ●ララミー牧場(肉牛)の視察 安全な畜産物が食卓に上がるまで ●デスカッション 畜産物の適正な価格について考える 5名より話題提供
8. 酪農研修会	21年3月4日	いすみ市	26人	(夷隅地域畜産連絡協議会との共催) ●チーズ作り体験学習会 ●駒形 雅明 氏(チーズ工房)
9. 畜産講習会	21年3月6日	印旛郡市	50人	(印旛郡市畜産振興協議会との共催) ●鈴木牧場(酪農)の視察 ●渡邊養豚場の農場紹介 ●今井養鶏場の視察 安全な畜産物が食卓に上がるまで
10. 酪農研修会 (3地域合同)	21年3月17日	茂原市	51人	(長生・山武・海匠地域畜産連絡協議会との共催) ●酪農経営の向上を目指して 畜産協会 前之園 孝光 ●乳牛健康セミナー 酪農コンサルタント 佐藤 正三氏 ●家畜ふん尿処理の基本と事例 畜産総合研究センター 山田 真希夫 室長

(5) 畜産経営関係情報のデータベースの整備

畜産経営体に対する効果的な支援指導を行う目的で、畜産関係情報のホームページによる提供を行った。

また、中央畜産会の開発した大家畜データベース(酪農経営・肉用牛経営情報の有効活用)を継続・維持管理し、加入等の問い合わせに対応した。なお、経営改善指導の一助に月刊誌「畜産コンサルタント」を毎月、20機関に配布した。「畜産会経営情報」(発行(社)中央畜産会)を毎月、120機関に配布した。

5 畜産経営の持続的発展を図るための事業((社)中央畜産会)

(地域畜産経営の持続・発展のための人材活用モデル体制整備事業)

経営支援に対する畜産経営のニーズは、畜産物の生産から、加工・流通の改善、販売等ますます多様化するとともに、必要とされる人材やサービスも細分化しつつあり、畜産物生産に特化した既存の経営支援体制では、十分な対応ができない状況にある。

このため、畜産経営の持続的な発展に資するため、畜産経営者の高齢化及び後継者不足等への対処を行うことを目的とする畜産経営の持続的発展を図るための事業(地域畜産経営の持続・発展のための人材活用モデル体制整備

事業)を実施した。

1) 需要の調査分析・人材資源の確保・紹介

(1) 需要・供給の調査分析

	事例数	調査時期	調査地域
需要調査	60	20年4月～21年3月	県下全域
供給調査	20	20年4月～21年3月	県下全域

(2) 人材資源の確保

DB(人材バンク)への新規登録 70名 総数 120名

(3) 人材資源の紹介

紹介事例 20事例

6 中央情報活用体制整備事業((社)中央畜産会)

中央畜産会が構築したシングルサインオン機能を活用した経営情報等の提供について、普及拡大活動として各支援機関・団体と連携し本機能の普及PRを実施するとともに、大家畜生産者自らが情報等を取得し活用できるよう支援した。

また、活用推進活動として、機能の利用希望者並びに利用希望を考えている農家及び支援者に対して、活用推進交流会の開催や活用促進のための現地支援を実施した。

※シングルサインオン機能とは、1つのIDによるアクセスで迅速に情報入手が可能となる仕組みのこと。

シングルサインオン機能の普及拡大事業

(1) 普及PR活動の実施

a 説明会の開催(2回)

内容:①千葉県における大家畜DBの普及・活用推進状況
②県域推進会議及び活用研修会

b 巡回説明の実施(3件)

- ・新規に利用を考えている畜産経営者等に対する説明活動(1件)
- ・県内で開催される生産者を対象としたイベントや各種勉強会におけるPR・説明活動(1件)
- ・利用希望者が見込まれる者を有する支援機関等に出向いてのPR・説明活動(1件)

(2) 利用希望者の申請書類等の取りまとめ

新規利用を行う者に係る申請書類等(14件)

利用内容を拡大する者に係る申請書類等(28件)

シングルサインオン機能の活用推進事業

(1) 活用推進活動の実施

ア. 活用推進交流会の開催（２回）

- ・牛群検定データの見方とその活用方法について
- ・牛群検定データの酪農生産現場における利活用について
- ・牛群管理プログラムを活用した助言書作成
- ・経営分析システムの活用方法について

イ. 畜産経営者の活用促進のための現地支援（１３件）

（２）活用推進レポートの取りまとめ（３事例）

【優良経営事例の経営・技術データ集積】

酪農：２事例、肉用牛：１事例

７ 国産飼料資源活用促進総合対策事業（畜産生産性向上促進総合対策）

（新規：（社）中央畜産会）

配合飼料価格の上昇に対応してこれまで取り組んできたコスト低減対策を基にさらに飼養、給与等の技術の改善、生産方式の転換等を図ることが重要になってきた。このことから、（１）地域勉強会の開催、（２）相談窓口の設置、生産者への助言・指導、（３）先行事例の調査・分析、（４）技術普及用パンフレット等の作成・配布 の４つのメニューを活用して関係機関・団体と連携して家畜の生産性向上に取り組んだ。

（１）地域勉強会の開催

リーダー的生産者を核として、地域の経営支援者を含めた飼養技術等に関する勉強会を開催した。

開催時期	勉強会名	開催場所	参加者
平成２０年 ８月２０日	平成２０年度養豚経営セミナー	旭市 「黄鶴」	６２
平成２０年 ９月２日	自給飼料（トウモロコシ）収穫実演・生産技術研修会	千葉市緑区 「藤平牧場」	３４
平成２０年 ９月２５日	飼料価格高騰緊急対策研修会（飼料米の利用推進に関する研修会）	旭市 「黄鶴」	６０
平成２０年 １０月１６日	ホールクロップサイレージ現地勉強会	東金市 「綿貫牧場」	１２
平成２０年 １１月６日	酪農講習会（都府県型酪農の生き残る道）	八街市 「千葉県畜産 総合研究セン ター」	６９
平成２０年 １１月２０日	横芝光町稲WCS推進組合 稲WCS給与検討会	横芝光町 「伊藤牧場」	２５
平成２０年 １２月５日	受精卵移植先進機関研修会	茨城県笠間市 「全農ETセン ター笠間分場」	２１

平成21年 3月2日	野田市酪農後継者視察研修会	佐倉市 「服部牧場」	11
平成21年 3月10日	平成20年度香取肉牛研修会	香取市 「山田公民館」	38
平成21年 3月16日	平成20年度香取地域酪農振興連絡協議会 研修会	九十九里町 「作田牧場」	19
平成21年 3月30・31日	(有)アイデナエンタープライズ十勝先進地酪 農視察研修会（2日間）	北海道 十勝・帯広地域	16

（２）相談窓口の設置、生産者への助言・指導

畜産協会内に常設の相談窓口、家畜市場・地域勉強会等に臨時相談窓口を設置し、生産者等からの相談・質問等に対応した。また、相談窓口や各関係者を通じて個別支援要請のあった生産者に対して関係機関・団体と連携して専門家を派遣し、調査・分析、助言・指導を実施した。

- １）相談窓口：延べ170件
- ２）生産者への助言・指導：延べ11戸

（３）先行事例の調査・分析

飼養管理等の面で先行的な生産者の飼養管理技術の特徴等を調査し、その効果を把握し、下記6事例について分析した。

- １）自給飼料の省力収穫への取り組みと品質・利用率の向上
デイリーグラス会：富里市：酪農経営
- ２）飼料高騰に向けた生産コスト低減対策
(有) アイデナエンタープライズ：いすみ市：酪農経営
- ３）耕作放棄地における放牧利用の推進
鴨川市放牧研究会：鴨川市：酪農経営
- ４）肉牛経営における河川敷野草等の利用
香取市肉牛生産組合：香取市：和牛一貫経営
- ５）豚舎施設の改善・種豚改良による生産性の向上
塩澤農場：富里市：養豚一貫
- ６）採卵養鶏におけるエコフィードの利用
農業生産法人 有限会社西野：君津市：採卵養鶏

（４）技術普及用パンフレット等の作成・配布

上記先行事例の調査・分析結果をとりまとめるとともに、千葉県における自給飼料の取組みについて、イネWCS、飼料米、イネソフトグレインサイレージ（イネSGS）の紹介、県内経営相談窓口の一覧を作成し配布した。

- A：相談窓口の設置、勉強会の実施の広報パンフレット 1,116部
B：先行事例、技術情報の普及パンフレット 4,000部

8 貸付事業指導等事業（（財）畜産近代化リース協会）

畜産近代化リース協会からの畜産機械、施設等の借受者を対象にその効果的利用を促進するため、再貸付団体の協力を得て、47基について確認調査並びに指導を実施した。

1 再貸付団体

No.	再貸付団体名	生産者数	No.	再貸付団体名	生産者数
1	うちぼうミルク農協	1	9	千葉酪農協	5
2	真栄酪農会	1	10	東金酪農協	2
3	全総酪農協	2	11	西葉酪農協	3
4	ちばみどり農協	1	12	房南酪農協	2
5	いすみ農協	1	13	南房総みるく農協	8
6	千葉県三和酪農協	5	14	八千代酪農協	2
7	千葉県東部酪農協	2	計		38
8	千葉北部酪農協	3			

2 貸付施設等

No.	貸付施設区分	調査数
1	自給飼料生産利用機械施設	25
2	搾乳施設	4
3	生乳冷却貯蔵施設	15
4	畜舎環境改善機械施設	3
計		47

9 大家畜経営改善支援資金借入者に対する指導事業（（社）中央畜産会）

大家畜経営改善支援資金借入者の経営改善計画の進捗状況について、県支援協議会（本協会事務局）が現地調査等を実施し、経営改善方策等について検討の上、借入者に対する指導を行った。

10 肉用牛振興推進事業委託業務（（社）全国肉用牛振興基金協会）

肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業について、千葉県肉用牛増頭協議会での事業説明、および現地指導を通じ、肉用牛繁殖基盤に係る事業推進を行った。

11 肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業・肉用牛生産性向上緊急対策事業

（（社）全国肉用牛振興基金協会）

肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業では、肉用牛繁殖基盤の強化を目的とした、肉用牛ヘルパー活動推進（削蹄、出荷、稲わら収集、除角など）、繁殖雌牛の導入促進（増頭奨励）、酪農経営等を活用した登記可能受精卵移植奨励、家畜市場活性化に対する取組支援、若齢繁殖雌牛の肥育情報収集を推進した。

肉用牛生産性向上緊急対策事業では、肉用牛の生産性向上を目的とした、繁殖台帳の整備や資材の導入による繁殖性の向上、ワクチン・生菌剤の活用及び各種機器の導入による事故率の低減を推進した。

(肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業)

肉用牛ヘルパー活動推進	4カ所(安房・鴨川・市原・香取、各肉用牛ヘルパー利用組合)の削蹄、出荷等ヘルパーの推進
繁殖雌牛の導入促進	前年度より繁殖雌牛を増頭した経営(10頭以上飼養に限る)に対し、8万円/頭の増頭奨励金を交付 19経営75頭
酪農経営等活用肉用牛増頭推進	酪農経営等が実施した登記可能受精卵移植への奨励 受精卵移植12組合321頭、子牛登記47頭
家畜市場活性化対策	購買促進対策として市場開催資料(カレンダー)作成、購買促進奨励金交付、繋留施設整備を行った 1組合(千葉県家畜商協同組合)
地域内肉用子牛導入促進対策	県内肥育者が、若齢繁殖雌牛(1、2産目)による県内生産子牛の肥育情報提供1頭につき2万円の奨励金交付 20頭

(肉用牛生産性向上緊急対策事業)

肉用牛生産性向上推進対策(研修会の実施)	繁殖性の向上を目的とした受精卵移植に係る研修会を実施した(10月)
雌牛繁殖性向上対策	繁殖成績の収集及びイージーブリードの導入(10頭)
肉用牛の事故率低下対策	衛生資材の支給(ワクチン【5種混合・ヘモフィルス・イモコリ等】・駆虫剤・生菌剤・防寒用ジャケット) 機器の導入(冷却・消毒用細霧装置、扇風機、集団用哺育パイプハウス牛舎)

1.2 畜産経営改善支援モデル事業(新規:(社)中央畜産会)

畜産内外の多方面の専門家等で構成される地域支援検討委員会が地域での生産基盤強化等に対する集団的取組に対して、経営支援を実施した。千葉県内では、下記2課題を実施。

課題1	豚トレサビリティ強化とブランド力向上販路拡大活動による養豚経営基盤強化 目的: 房総ポーク販売促進協議会におけるトレサビリティ参加農家の増加、及び県内取扱店の増加を目指す 《主な活動》検討委員会準備会(2月)、支援検討委員会(3月)
課題2	耕作放棄地の酪農経営における放牧活用の推進 目的: 安房・夷隅地域の耕作放棄地を利用した放牧の取組をモデル化し、安房・夷隅をはじめとして県内他地域への放牧の推進を図る 《主な活動》支援検討委員会、放牧研修会(2月)、現地指導(随時)

1 3 国産飼料資源活用促進総合対策事業（飼料用米利活用モデル実証）

（新規：（社）日本草地畜産種子協会）

飼料用米利活用のモデル実証を行う集団が提出する各種書類の審査、取りまとめ及び草地協会への提出並びに事業の実施状況の確認を行う。

なお、千葉県内で飼料用米利活用モデル実証を実施した集団は、旭市飼料用米利用者協議会（飼料用米作付面積約50ha）及び市原市飼料用米生産・利用協議会（同約3ha）の2集団。取組内容は、飼料用米の流通・保管及び調整に関する実証調査や飼料用米給与による家畜・畜産物への影響調査等を実施した。

1 4 講習会・講演会等指導事業

世界経済の沈滞による消費停滞への影響からか、昨年秋以降の豚価格の低迷に加え配合飼料価格の高止まりと、経営は大変厳しい状況に置かれている。

このような現状を踏まえ、生産性向上を図るための技術、情報提供、意見交換のための講演会・講習会を開催した。

1 5 養豚振興対策事業（（独）農畜産業振興機構）

国産豚肉に対する需要の確保、国際競争力を備えた養豚生産基盤の確立に資すると共に、事故率の低減や繁殖性の向上等を通じた生産性の向上を推進して行くため、各地域において豚生産性向上目標を掲げ、これら目標を地域が一体となって達成して行くための取組みに対する支援を行うことにより、養豚経営の体質強化を図った。

（地域養豚振興特別対策）

豚改良体制再編整備推進 実施集団 3 集団	○優良種豚の導入6頭（ランドレース種、大ヨークシャー種、デュロック種） ○優良種豚の血統・証明等（子豚登記・種豚登録・産子検定・繁殖登録）
地域資源活用等銘柄化確立 推進 実施集団 1 集団	○原種豚の導入40頭（中ヨークシャー種） ○販売促進資材等（リーフレット・ポスター・シール）

（養豚生産性向上緊急対策）

1 生産性向上推進指導 事業 実施集団 3 集団	○衛生プログラム作成のための検討会 ○抗体検査を基にした検討会・勉強会
2 生産性向上促進対策 事業 （1）事故率低減対策 実施集団 10 集団	○衛生プログラムに基づく衛生資材（ワクチン・消毒薬） ○疾病予防のための抗体検査（検査キット・検査料） ○衛生環境の改善を図る為の器具・機材（高圧洗浄機・動力噴霧器・豚房掃除機換気扇・豚舎細霧装置） ○オールインオールアウトによる環境改善（簡易離乳豚舎）

(2) 繁殖性向上対策 実施集団 8 集団	○年間の受胎率向上を図る為の精液（一代雑種生産のための精液） ○精子数等検査用器具・機材（顕微鏡・分光光度計） ○精液注入用器具（カテーテル） ○繁殖成績向上のための器具・機材（妊娠鑑定機・分娩柵・保温マット・保温器具）
(3) 労働生産性等の向上対策 実施集団 9 集団	○労働時間の短縮等により労働生産性向上を図る器具・機材（自動給餌システムストール柵・自動ソーティングシステム） ○飼料効率向上を図るための器具・機材（ウェット給餌器） ○品質規格の統一を図る器具・機材（豚衡機）

1 6 県産豚肉知名度向上対策事業（県）

千葉県は農業算出額全国第2位の位置にあり、その中で畜産・養豚は年間110万頭以上を出荷する全国第4位の養豚県でありながら、県内消費の認知度が低い状況にあることから県事業として、昨年から実施している。

事業は県内銘柄豚肉の生産者及び生産者組織、販売者等と連携を図り、「旨さが多彩」「チバザポーク」の統一名称及びキャッチコピーを作り、広報・宣伝活動を行った。

中でもラジオCMとしてDJが銘柄豚肉を試食する「チバザポーク」のアピールとリスナーへの銘柄豚プレゼント企画は大きな反響を得た。

また、幕張メッセで開催された「ちば大地と海の恵み」商談会へ銘柄豚生産者・販売団体が参加し、「ロゴマークの発表」、メディアによる生中継レポート放送を実施し、特に流通業界へのPRに努めた。

松戸市で開催した「消費者交流会」では、街頭での県産銘柄豚試食PRを行い、直接消費者との交流を図ることにより本県産豚肉知名度向上を図った。

1 7 国産飼料資源活用促進総合対策事業（(社) 中央畜産会）

地域エコフィード利用推進

飼料原料の大多数を輸入に依存している畜産業界にとって、配合飼料価格の高騰、高止まりは経営を大きく圧迫している状況から、飼料自給率を高めることに繋がるエコフィードの活用は不可欠である。

エコフィードの利用については、本県が大都市隣接地域として、未利用資源も豊富であることから従来から利用されてきたが、米国におけるトウモロコシを原料としたバイオ燃料の生産から配合飼料の暴騰の影響もあり、近年特に安全性・品質・畜産物の評価を考えたエコフィードの利用が進められ、本事業による資源及び製造施設の調査と農家におけるエコフィード実証試験をとおして、し好性・発育・畜産物評価・安全性等により普及啓蒙と地域性を生かした利用により経営安定強化を図った。

Ⅱ 家畜衛生向上に関する事業

1 家畜生産農場清浄化支援対策事業（（社）全国家畜畜産物衛生指導協会）

予防接種によるアカバネ病等の発生・流行の防止及びオーエスキー病の清浄化を図るため推進会議等を開催し、組織的な対策を推進し生産農場の清浄化に努めた。

（1）伝染病の発生・流行の防止のための防疫促進

アカバネ病等の発生や流行を防止するため予防ワクチン接種に対して助成を行った。

年度	アカバネ(生)	異常産(3種混合)	IBR 5種混合(生)	IBR 5種混合(不)
20	6,552 頭	10,986 頭	460 頭	2,678 頭
19	8,019 頭	11,602 頭	280 頭	2,744 頭

平成 20 年度市町村別ワクチン接種状況（戸数・頭数）・・・別表 1

（2）オーエスキー病清浄化のための防疫推進

1 2 月 1 日から本事業によりワクチン接種等を実施した。また、清浄豚の流通対策で抗体検査及び証明書発行について助成した。

オーエスキー病ワクチン接種実績

年度	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計
2 0	108,370 頭	101,140 頭	111,170 頭	108,460 頭	429,140 頭
1 9	—	—	—	—	実績なし

平成 20 年度市町村別ワクチン接種状況（戸数・頭数）・・・別表 1

2 家畜防疫互助事業（（社）全国家畜畜産物衛生指導協会）

本事業は口蹄疫、豚コレラ等の海外悪性伝染病（牛疫、牛肺疫、アフリカ豚コレラ）が発生した場合、畜産経営への影響を緩和するため、生産者自ら積立を行い発生時の損害を互助補償する仕組みに国（（独）農畜産業振興機構）が支援を行うもので、事業実施期間は平成 1 8 年度～2 0 年度までの 3 年間で、2 0 年度は牛で 1 戸・6 6 頭、豚で 3 0 頭の加入があった。

平成 1 9・2 0 年度別家畜別基金加入状況

年度	牛			豚		
	戸数	頭数	基金造成額	戸数	頭数	基金造成額
2 0	881 戸	72,233 頭	4,197,510 円	246 戸	543,382 頭	39,951,030 円
1 9	880 戸	72,167 頭	4,192,110 円	246 戸	543,352 頭	39,945,330 円

市町村別事業加入状況（契約戸数・頭数）・・・別表 2

3 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業（（社）全国家畜畜産物衛生指導協会）

BSEの浸潤状況をより正確に把握しBSEの防疫対策を検証するため、死亡牛の適正処理とBSE検査を円滑に実施するため、推進会議を開催するとともに死亡牛の輸送費や化成処理費に要する経費について助成を行った。

平成19・20年度別死亡牛発生頭数等

年度	対象農家数	飼養頭数(24月以上)	死亡牛発生頭数	備考
20	1,490戸	36,700頭	1,506頭	4.1%
19	1,505戸	37,150頭	1,616頭	4.3%

市町村別助成状況（戸数・頭数）・・・別表3

4 自衛防疫・自主管理強化対策事業（県）

（1）豚コレラ撲滅対策

予防接種を中止した後の豚コレラウイルスの動向を把握するため、養豚農家の衛生管理状況等の調査及び巡回指導を行い情報収集に努めるとともに、その結果を踏まえて家畜衛生管理対策の向上を目指し推進会議を開催した。

ア 獣医師による市町村別巡回指導・・・別表4

イ 自衛防疫推進会議の開催

県域段階 1回、地域段階 4回（4家保×1回）

（2）オーエスキー病防疫対策事業

本事業はAD防疫対策要領の改正により新たな防疫対策に移行するため平成20年11月末日をもって終了した。

平成19・20年度月別ADワクチン接種頭数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
20	106,240	88,980	136,440	93,480	96,750	113,450	118,260	109,980	863,580
19	107,990	102,830	141,340	87,600	105,200	105,080	113,200	107,280	870,520

市町村別ADワクチン接種状況（戸数・頭数）・・・別表1

5 馬飼養衛生管理特別対策事業（（社）全国家畜畜産物衛生指導協会）

馬の生産、流通の国際化等に伴いウエストナイルウイルス感染症等の侵入、流行の危険性が大きいことから、競走馬以外の馬の獣医療実態調査、飼養衛生管理技術講習会等を行い、馬自衛防疫の意識向上に努めた。

（1）地域馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催 1回 11名出席

日時：平成20年9月25日(木)

場所：千葉県畜産会館

- (2) 馬飼養衛生管理技術地方講習会の開催 1回 51名出席
 日時：平成21年1月21日(水)
 場所：千葉県畜産総合研究センター 会議室
 演題：馬の管理 講師：椎名 紀夫（下総軽種馬臨床獣医師会長）

(3) 地域馬獣医療実態調査

競走馬以外の馬に対して移動・流通実態を把握するため、県内100戸の乗馬倶楽部等を対象として、昨年度に回答が得られなかった41農場についてアンケートを実施した。

6 育成馬予防接種推進事業（（社）全国家畜畜産物衛生指導協会）

馬飼養の集団化、大規模化及び煩雑な移動等の実態を踏まえ育成馬について予防接種の徹底を図るため（社）日本軽種馬協会関東支部に委託し、その必要経費の一部を助成し、馬防疫の推進に資した。

予 防 接 種 頭 数 (単位：頭)

年度	3種混合ワクチン			インフルエンザワクチン				日本脳炎ワクチン	
	1歳馬	2歳馬	計	1歳馬	2歳馬	繁殖牝	計	2歳馬	計
20	80	510	590	40	510	50	600	510	510
19	80	510	590	40	510	—	550	510	510

7 馬鼻肺炎流産予防接種事業（（社）全国家畜畜産物衛生指導協会）

生産地における馬飼養形態の集団及び煩雑な移動等による馬鼻肺炎まん延の実態を踏まえ、繁殖牝馬について馬鼻肺炎の予防接種の徹底を図るため、（社）日本軽種馬協会関東支部に委託しその必要な経費の一部を助成し、馬防疫の推進に資した。

馬鼻肺炎予防接種頭数・・・150頭

8 マイクロチップ生産地普及促進事業（（社）全国家畜畜産物衛生指導協会）

生産地におけるマイクロチップ導入を促進するため（社）日本軽種馬協会関東支部に委託しその必要な経費の一部を助成し、マイクロチップの普及に資した。

マイクロチップ購入・埋込・・・・・・ 9頭

9 高病原性鳥インフルエンザ防疫強化緊急対策事業

（（社）全国家畜畜産物衛生指導協会）

本県養鶏農場の鳥インフルエンザウイルス侵入防止体制の向上を図るための関係者による推進会議や野生生物等の防除に関する検討会をし、防疫体制の強化に努めた。

- (1) 地域推進会議 平成21年3月23日(月) 京葉銀行文化プラザ 36

名出席

(2) 野生動物等防除に関する検討会の開催

年月日：平成20年11月20日(木)

場 所：ホテルプラザ菜の花

出席者：養鶏農家、県・市町村職員、関係機関・団体 101名出席

演 題：高病原性鳥インフルエンザの発生を防止するために

講 師：伊藤 壽啓（鳥取大学教授）

10 協会単独事業（協会単独）

オーエスキー病、丹毒、日本脳炎・パルボ（2種混合）等豚の予防接種を計画的に実施することにより疾病の発生を未然に防止し、もって生産性の向上と養豚経営の安定に資した。

別表1 平成20年度市町村別ワクチン接種頭数実績

(単位:戸、頭)

種類 市町村	牛								豚													
	アカバナ (生)		異常産 (3種混合)		伝染性 鼻気管炎 5種混合 (生)		伝染性 鼻気管炎 5種混合 (不活化)		県オーエス キーワクチン 接種事業		家畜生産農場 清浄化支援対 策事業(オーエ スキー)		協 会 事 業									
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	オーエス キー		丹毒		日本脳炎 (生)		パルボ		日本脳炎 ・パルボ (2種混合)	
千葉市	13	683	20	442	6	67	32	974	1	800					1	2,006					2	118
八千代市	17	689	8	116	1	2	37	1,125														
市原市	13	353	11	86	15	22			7	47,600	2	5,400										
船橋市	4	56	12	323	0	0	18	395														
野田市	0	0	9	151	0	0			1	9,000												
柏市															1	181						
鎌ヶ谷市	1	50	0	0																		
成田市	1	73	28	1,002	4	9			6	63,000	4	10,150	1	7,000	1	31					1	2
佐倉市	6	106			30	233			1	90							2	90			3	160
四街道市	2	95	2	16																		
八街市	7	215	2	55	3	4			5	2,600			6	1,300							3	56
印西市	1	10																				
白井市			4	67																		
富里市	1	20	12	230	3	5			6	2,270			1	200			1	45			3	136
酒々井町	1	18																				
印旛村	5	46																				
香取市	5	60	57	1,533	3	3			30	84,730	24	44,820										
神崎町			6	168																		
多古町	1	1	57	1,187	3	5	8	184	10	33,840	6	25,900										
東庄町			21	580					25	88,640	19	38,750	6	4,220								
銚子市	0	0	14	661	0	0			17	28,550	18	12,980										
旭市	21	468	33	966	0	0			59	426,330	65	257,580	1	20							1	6
匝瑳市	0	0	33	553	3	8			18	24,350	21	12,710					3	100				
横芝光町	2	68	20	432	0	0			16	14,470	13	6,980			0	0	4	120			2	20
東金市	2	91	7	220																		
大網白里町	3	82	4	138	2	3											1	20	1	7		
九十九里町	1	25																				
山武市	11	399	21	488	5	10			11	22,830	10	13,370										
芝山町	4	80	0	0					2	1,200	2	500									3	38
茂原市	2	16			2	2			1	30			1	90								
一宮町	4	42																				
睦沢町	1	15	8	121	0	0			1	13,200			1	2,600							1	30
長生村	3	21	2	40	0	0																
白子町			12	160	0	0																
長柄町	2	37	4	29	0	0																
長南町	1	30	2	13	4	7																
勝浦市	2	19																				
大多喜町	2	18	1	9																		
いすみ市	21	762			5	10																
館山市	6	215	6	24	1	1																
鴨川市	7	79			11	16																
南房総市	56	880	74	545	17	32																
鋸南町	5	84	10	118	2	4																
木更津市			10	124											1	3,600						
君津市	2	19	5	33	5	8			1	50			1	160								
富津市	9	190	2	19	8	8																
袖ヶ浦市	10	219	16	337	1	1																
市原乳牛研 究所	1	218	0	0																		
合計	256	6,552	533	10,986	132	460	95	2,678	218	863,580	184	429,140	18	15,590	4	5,818	11	375	1	7	19	566

※ 個人情報に関係する場合がありますので、取扱いにはご注意ください。

別表 2 20年度家畜防疫互助事業加入者市町村別契約戸数・頭数

(単位 : 戸、頭)

市町村名	牛戸数	乳用牛 2歳以上	乳用牛 2歳未満	肉専用 繁殖雌 2歳以上	肉専用 繁殖雌 2歳未満	肉専用種 と乳用種 の交雑種 肥育牛	乳用種 肥育牛	合計 牛頭数	豚戸数	繁殖用 豚(雌)	繁殖用 豚(雄)	肥育豚	合計 豚頭数
千葉市	52	2,087	472	36	29	118	11	2,753	3	261	18	2,230	2,509
八千代市	18	689	177	0	0	0	0	866	3	305	18	2,200	2,523
船橋市	13	748	71	0	0	0	0	819	1	0	0	800	800
野田市	5	183	1	0	0	4	0	188	0				
鎌ヶ谷市	1	70	30	0	0	0	0	100	0				
習志野市	1	0	0	0	2	25	0	27	0				
市原市	21	564	254	188	135	13	603	1,757	7	1,830	119	16,050	17,999
松戸市	0								1	10	1	20	31
柏市	0								3	60	6	400	466
茂原市	9	335	81	0	0	0	0	416	1	200	70	1,900	2,170
睦沢町	5	88	47	0	0	0	0	135	0				
長生村	1	80	0	0	0	0	0	80	0				
白子町	5	137	26	0	0	0	0	163	0				
長柄町	5	90	35	11	4	0	0	140	0				
長南町	4	164	66	0	0	0	0	230	0				
東金市	7	304	67	0	0	0	0	371	0				
大網白里町	3	105	30	0	0	0	0	135	0				
九十九里町	6	153	40	0	32	188	0	413	0				
山武市	40	1,573	343	72	90	120	4	2,202	13	2,035	157	16,052	18,244
横芝光町	20	372	161	50	270	2,190	0	3,043	13	834	73	6,320	7,227
芝山町	4	111	9	0	0	10	0	130	1	50	3	0	53
銚子市	19	895	95	11	117	2,487	719	4,324	15	1,930	109	15,600	17,639
匝瑳市	25	897	199	216	425	3,637	393	5,767	10	910	70	27,227	28,207
旭市	41	1,076	204	279	669	2,903	1,330	6,461	57	19,552	856	203,746	224,154
館山市	21	647	303	29	8	341	400	1,728	3	1,140	81	7,000	8,221
南房総市	144	3,574	1,019	205	107	420	160	5,485	1	150	12	1,600	1,762
鋸南町	18	318	107	8	2	0	0	435	0				
鴨川市	37	690	332	102	100	22	0	1,246	1	20	1	150	171
大多喜町	6	80	30	16	62	500	20	708	1	150	5	1,300	1,455
勝浦市	2	0	0	11	20	0	0	31	0				
いすみ市	16	753	304	2	0	40	0	1,099	2	330	24	3,200	3,554
御宿町	4	234	155	0	0	950	0	1,339	0				
木更津市	19	442	151	3	2	10	200	808	2	270	20	2,700	2,990
袖ヶ浦市	39	1,327	635	46	15	275	4,330	6,628	0				
君津市	13	240	79	22	3	580	1,835	2,759	1	170	11	2,000	2,181
富津市	39	958	357	16	532	24	2	1,889	1	200	10	4,000	4,210
佐倉市	15	274	86	47	315	1,573	270	2,565	5	280	27	2,350	2,657
成田市	22	830	371	68	172	206	25	1,672	11	5,715	217	35,230	41,162
四街道市	7	311	109	12	27	3	53	515	0				
八街市	23	981	295	0	35	85	270	1,666	8	377	30	1,705	2,112
富里市	10	453	90	15	25	20	120	723	13	1,155	86	7,470	8,711
印旛村	4	127	56	0	0	60	0	243	1	0	0	170	170
白井市	0								1	110	10	800	920
印西市	2	130	12	0	0	0	0	142	1	200	10	2,000	2,210
栄町	1	44	27	0	0	0	0	71	0				
神崎町	5	184	87	0	0	0	0	271	0				
香取市	53	1,797	399	133	626	587	0	3,542	31	5,946	333	45,560	51,839
多古町	49	1,873	300	55	40	205	525	2,998	5	1,033	73	10,365	11,471
東庄町	24	970	224	39	73	854	485	2,645	28	4,149	264	48,050	52,463
その他	3	0	0	0	90	340	75	505	2	630	21	22,450	23,101
合計	881	27,958	7,936	1,692	4,027	18,790	11,830	72,233	246	50,002	2,735	490,645	543,382

※ 個人情報に関係する場合がありますので、取扱いにはご注意願います。

別表3 平成20年度 死亡牛市町村別助成状況(戸数・頭数)

単位:戸、頭

地域	市町村名	戸数	頭数	地域	市町村名	戸数	頭数
中央	千葉市	34	76	南部	鋸南町	9	27
	八千代市	19	56		鴨川市	26	43
	船橋市	9	15		勝浦市	1	1
	野田市	14	33		大多喜町	9	17
	鎌ヶ谷市	1	7		いすみ市	14	24
	市原市	18	42		御宿町	3	9
東部	茂原市	6	12		木更津市	12	15
	一宮町	3	3		袖ヶ浦市	25	64
	睦沢町	6	7		君津市	5	19
	長生村	6	7		富津市	16	27
	白子町	3	4	北部	佐倉市	9	18
	長柄町	6	18		成田市	19	73
	長南町	7	16		四街道市	6	21
	東金市	6	13		八街市	18	51
	大網白里町	4	7		富里市	5	16
	九十九里町	5	9		印旛村	3	11
	山武市	28	89		白井市	1	1
	横芝光町	11	25		印西市	1	5
	芝山町	3	3		栄町	1	1
	銚子市	14	62		香取市	28	101
	匝瑳市	18	54		神崎町	4	18
	旭市	41	93		多古町	23	61
南部	館山市	16	37		東庄町	12	52
	南房総市	81	140	合計		609	1,503

別表4 自衛防疫・自主管理強化対策事業における獣医師による市町村別巡回指導

地域	獣医師名	所属	市町村名	戸数	巡回日数	雇上日数
中央	桑原秀樹	地域	柏市・野田市	6	8	8
東部	川合吉助	共済(北部家畜診療所)	旭市・横芝光町・銚子市・匝瑳市	19	62	4
東部	古屋浩 他	共済(東部家畜診療所)	横芝光町・山武市・芝山町・大網白里町・東金市	17	6	3
東部	安藤元春	地域	旭市	23	7	4
東部	伊豫 節	地域	横芝光町・匝瑳市	11	9	2
東部	川辺徹雄	地域	匝瑳市・銚子市	6	4	1
東部	新垣宜要	地域	横芝光町・山武市・匝瑳市	22	16	5
東部	平野彰男	地域	銚子市	9	2	2
東部	鴫田 昭	地域	旭市	14	4	3
南部	芳賀弘樹	共済(中央家畜診療所)	木更津市	1	4	4
南部	藤谷光夫	共済(中央家畜診療所富津出張所)	富津市	1	3	3
北部	平山 武	地域	多古町	6	6	6
北部	高岡淳二	団体	香取市	8	8	8
北部	松田雅彦	団体	成田市・香取市・富里市	7	7	7
合 計				150	146	60

※ 個人情報に関する場合がありますので、取扱いにはご注意願います。

Ⅲ 畜産の活性化を進める事業

1 畜産フェア（協会単独）

「食べよう・話そう・知ろう」をテーマに県産畜産品を消費者にPRするため、第2回目の畜産フェアを10月11日（土）船橋競馬場ふれあい広場において開催した。

県内畜産関係の33団体が出展し、県内の畜産の現状、安全・安心な商品をPRした。また、来場者には県内の畜産をより知ってもらうため3回の「畜産ウルトラクイズ」を開催、協賛いただいた30団体から参加者に豪華な畜産品をプレゼントした。

2 畜産関係団体調整機能強化事業（（社）中央畜産会）

畜種を越えた畜産に携わる女性のネットワーク「ちば畜産レディースネットワーク」、仲間づくりの事業を支援した。

また、地方競馬の振興と併せて畜産物の理解を図る活動を船橋競馬場にて実施した。

3 畜産物安全・安定供給相互理解体制推進事業

畜産物の安全安定供給におけるそれぞれの取組みなどについて、生産者から流通、消費者に至る代表機関・団体が相互に理解するための会議及び研修会、交流会等を実施した。

なお、実施にあたっては県域検討委員会で検討した内容に基づき、国産食肉事業を利用して実施した。

（1）県域検討委員会（2回）（地方競馬全国協会）

第1回：平成20年9月30日

内容：昨年度までの取組みについて、アンケート調査結果、平成20年度事業実施計画について

第2回：平成21年3月25日

内容：平成20年度の事業実施結果について
平成21年度の県域検討委員会について

（2）生産者、消費者、検討委員等との現地視察・交流促進活動

（国産食肉需要構造改善対策事業）（（財）日本食肉消費総合センター）

食肉の安全性などの専門的な情報を消費者に分かり易く伝達し、国内畜産への理解醸成等を通じて、国産食肉等の信頼の確保を図るため、一般消費者等を対象とした現地視察研修会及び産地交流会を開催して国産食肉の需要拡大及び畜産物の安全安心に対する相互理解を深めた。

畜種として養豚を題材としてエコフィードを対象として、2回実施した。

呼 称：畜産物安全安心に係る相互理解促進のための現地視察・産地交流会（①②共通）

実施日：①平成20年11月28日（金） ②平成21年1月26日（月）

場 所：①旭市（（有）ブライトピック千葉溝原工場、銚子農場）

②佐倉市（（株）アグリガイアシステム）

参加者：①53名東葛飾地域の消費者等②47名千葉・市原地域の消費者等

4 地域畜産ふれあい体験交流活性化事業（（社）中央畜産会）

畜産経営体が主体性を持って消費者とのふれあい交流を行う体制を整備することを目的に、地域活性化会議や研修会、調理教室を開催及び普及・啓発向上資材の作成を行い、畜産の振興に資する。

地域活性化会議 平成20年10月14日	・当事業に係る推進会議 ・体験交流研修会の詳細打ち合わせ（出席者7名）
体験交流研修会 平成20年12月7日	・館山市須藤牧場にて、生産者を対象に消費者受入牧場の搾乳・ほ乳体験や命の教育を消費者へ実施している現場を見学。 ・昼食は千葉県産畜産物を中心に準備。生産者からの畜産物のアピールも実施。（参加者45名）
加工調理体験教室 平成21年3月14日	・ブランド牛肉「そうさ若潮牛」を利用した調理教室を開催。地元産野菜「ひかりねぎ」とのコラボ料理をはじめとした調理を実施。 ・生産者と消費者との交流では、当日の食材である牛肉の生産者からの話を交えて、千葉県産畜産物の安全安心をアピールした。（参加者42名）
地域活性化会議 平成21年3月25日	・体験交流研修会、加工調理体験教室の実施結果報告 ・次年度以降の事業推進計画の検討（出席者8名）

5 優良種豚場認定事業（（社）日本養豚協会）

農家戸数の減少、規模拡大に伴い種豚の供給を担うブリーダーの役割は限定されてきている状況にある。

厳しい生産現場の状況を考えると、より能力（繁殖性・産肉性）の高い種豚の改良・確保が最も重要であることから、種豚の生産基盤強化と登録事業の推進を図るため（社）日本養豚協会認定規定に基づき認定を受け育成強化を図った。 指定種豚場12場 衛生管理優秀種豚場5場

6 種豚オークションの開催

県内ブリーダーの育成と純粋種資源確保を図るため、養豚生産者、関係者の協力を得て開催し、優良種豚の流通促進と関係者間の情報交換の場ともなりオークションをとおして、本県養豚産業推進に重要な種豚の確保を図った。

第26回開催：平成20年 6月11日（水） 出品頭数 37頭

第27回開催：平成20年10月29日（水） 出品頭数 58頭

第28回開催：平成21年 2月18日（木） 出品頭数 71頭

7 種豚改良対策基金原種豚認定事業

（社）日本養豚協会指定種豚場を対象とした事業として、本県純粋種豚の改良、資源確保のため本事業により強化推進を図った。

認定農場 11農場

IV 畜産物の品質向上を図る事業

1 登録事業

優良種豚改良の基本となる登録を（社）日本養豚協会登録規定に基づき実施した。

種豚登録	182頭、	子豚登記	697頭、	一代雑種血統証明	610頭
産子検定	84頭、	繁殖登録	43頭、	能力血統証明	24頭
予備登記	5頭、	予備登録	5頭、	肉豚証明	446頭

2 検定・検査測定・調査事業

地域養豚振興特別対策事業の委託先及び千葉県自家検定推進協議会事業として連携をとり、種豚場及び繁殖豚の能力を現場において検定・測定を実施し、そのデータは国が実施する遺伝的能力評価によって分析され、そのデータを基に種豚改良と肉質改善を図った。

繁殖検定 512頭 ・ 産肉検定 116頭 ・ 産肉調査 582頭

3 家畜改良体制整備総合対策事業

千葉県家畜改良推進協議会を通じ、電算化による血統・検定成績の証明の迅速な発行処理を図ると共に、改良に関するデータの利用推進を図った。

4 豚共進会事業（県）

全国第4位の生産を誇る豚肉生産の維持、拡大と生産の安定を図るために必要な優良種豚の確保のため、種豚改良の成果を競い合いまた勉強会・情報交換の場として関係機関の協力を得て開催し、種豚の重要性和品質の高い豚肉生産技術の向上を図った。

肉豚の部：平成20年9月30日・10月1・2日
（株）千葉県食肉公社 出品頭数 292頭

種豚の部：平成20年10月28・29日
JA全農八街家畜市場 出品頭数 29頭

5 系統豚維持組合せ事業（県）

県が造成した系統造成豚の利用により種豚の能力・豚肉の品質を検証するため、系統豚維持、増殖を行う生産者集団農家において、現場における種豚の能力を調査し、そのデータを基に系統豚の普及拡大と強化を図った。

調査維持農場 4場
繁殖能力調査 129頭・産肉能力調査 135腹

6 優良種豚育種効率向上推進事業（県）

品質の高く、安定した豚肉生産を図るために必要な優良種豚の確保と改良を推進するため、生産農場における種豚の現場検定及びその系統から生産された肉豚の枝肉調査を実施し、そのデータを基に能力の高い優良種豚の増殖・選抜確保を図った。

純粋種豚の確保頭数 3 6 0 頭（農場数 1 6 場）

現場検定頭数 繁殖 1 6 7 頭 ・ 産肉 1 1 6 頭

産肉調査 枝肉 4 9 0 頭

V 畜産経営の安定化を図る事業

1 肉用子牛生産者補給金交付業務（(独)農畜産業振興機構）

（1）肉用子牛生産者補給金交付に係る業務

肉用子牛生産安定等特別措置法に基づき、生産者補給金の交付等の事業を通じ、肉用子牛生産の安定と経営の健全な発展に努めた。

① 平成20年度生産者補給金交付契約締結者 279人

② 事務委託先契約締結数 20件

1) 契約肉用子牛の個体登録

（単位：頭）

区分 品種	平成20年 1月1日～ 3月31日	平成20年 4月1日～ 6月30日	平成20年 7月1日～ 9月30日	平成20年 10月1日～ 12月31日	計
黒毛和種	176	143	141	186	646
褐毛和種	—	—	—	—	—
その他肉専	8	14	18	8	48
乳用種	1,038	1,121	1,137	726	4,018
交雑種・乳	1,910	1,766	2,059	2,236	7,971
計	3,128	3,044	3,355	3,156	12,683

2) 生産者積立金の積立額

品 種	契 約 頭 数 (頭)	積 立 単 価 (円)	積 立 額 (円)	負 担 区 分 (円)		
				農畜産業 振興機構	千葉県	生産者
黒毛和種	646	9,900	6,395,400	3,197,700	1,598,850	1,598,850
褐毛和種	—	—	—	—	—	—
その他肉専	48	27,100	1,300,800	650,400	325,200	325,200
乳用種	4,018	12,700	51,028,600	25,514,300	12,757,150	15,757,150
交雑種・乳	7,971	5,000	39,855,000	19,927,500	9,963,750	9,963,750
計	12,683	—	98,579,800	49,289,900	24,644,950	24,644,950

3) 生産者補給金交付状況

(単位：円、頭)

区 分	保証基準価格の品種区分		黒毛和種	その他肉用	乳用種	交雑種・乳	合 計
平成20年 1月1日 ～ 平成20年 3月31日	交付対象 頭数 ①	販売			403		403
		保留			582		582
		合計			985		985
	②生産者補給金単価				13,400		-
	③生産者補給交付金額(①×②)				13,199,000		13,199,000
	交付対象生産者数						28
平成20年 4月1日 ～ 平成20年 6月30日	交付対象 頭数 ①	販売			508	569	1,077
		保留			349	729	1,078
		合計			857	1,298	2,155
	②生産者補給金単価				23,700	8,800	-
	③生産者補給交付金額(①×②)				20,310,900	11,422,400	31,733,300
	交付対象生産者数						63
平成20年 7月1日 ～ 平成20年 9月30日	交付対象 頭数 ①	販売			407	873	1,280
		保留			501	1,082	1,583
		合計			908	1,955	2,863
	②生産者補給金単価				32,000	38,600	-
	③生産者補給交付金額(①×②)				29,056,000	75,463,000	104,519,000
	交付対象生産者数						64
平成20年 10月1日 ～ 平成20年 12月31日	交付対象 頭数 ①	販売			281	1,138	1,419
		保留			520	894	1,414
		合計			801	2,032	2,833
	②生産者補給金単価				32,300	26,900	-
	③生産者補給交付金額(①×②)				25,872,300	54,660,800	80,533,100
	交付対象生産者数						65
合 計 平成20年 1月1日 ～ 平成20年 12月31日	交付対象 頭数 ①	販売			1,599	2,580	4,179
		保留			1,952	2,705	4,657
		合計			3,551	5,285	8,836
	②生産者補給金単価				-		-
	③生産者補給交付金額(①×②)				88,438,200	141,546,200	229,984,400
	交付対象生産者数						75

(2) 子牛生産拡大奨励事業（(社) 全国肉用牛振興基金協会）

肉用子牛繁殖経営の安定と子牛生産拡大意欲の向上を図るため肉専用種繁殖雌牛の規模拡大・維持者に対して奨励金を交付することにより肉専用種繁殖経営における肉用牛資源の拡大に努めた。

なお、20年度の奨励金の交付は無かった。

(3) その他補給金制度にかかる事業

1) 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業（運営適正化事業）
（(独) 農畜産業振興機構）

肉用子牛生産者補給金制度にかかる業務の適正な実施を図るため、全国統一電算処理システムの整備強化並びにこれらによる業務の充実と事務委託先との個体登録個体識別及び販売・保留確認等の業務の委託により適正かつ円滑な実施に努めた。

2) 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業（指定協会運営体制支援事業）
（(独) 農畜産業振興機構）

生産者補給金制度の推進のための実施体制の確立と運営基盤の安定化のために、財政的支援を得て、協会運営の財政的基盤の強化を図り、肉用子牛生産者補給金制度の適正な運営に努めた。

(4) 肉用子牛資質向上緊急支援事業（新規：(社) 全国肉用牛振興基金協会）

繁殖経営の収益性の改善を図るため、地域において特に優秀な種雄牛の精液による交配や優良な繁殖雌牛への更新により子牛の資質向上に取り組む肉用子牛生産者補給金制度契約生産者に対して、支援交付金を交付した。

支援交付金交付状況

区 分	単 価	対象見込頭数	支援交付金
1 種雄牛精液による人工授精	円／頭	頭	円
・ 交付対象基準価格を1万円未満 下回った場合	10,000	8	80,000
・ 交付対象基準価格を1万円以上2 万円未満下回った場合	20,000	15	300,000
・ 交付対象基準価格を2万円以上 下回った場合	30,000	79	2,370,000
計		102	2,750,000
2 繁殖雌牛の更新	円／頭	頭	円
	50,000	0	0
合 計		102 頭	2,750,000円

2 肉用牛肥育経営安定対策事業（（社）中央畜産会）

肉用牛肥育経営においては、素畜の導入から肥育牛の出荷まで一定期間を要し、かつ、生産費用に占める素畜費の割合が大きいことから、素畜価格と枝肉価格の水準によっては経営収支の悪化が懸念される。このため、肉用肥育経営の収益性が悪化した時に肥育牛補てん金を交付し、肉用牛肥育経営の安定と肉用牛生産基盤の拡大に努めた。

本年度は、飼料価格が急騰したため、緊急処置として従来業務年間での中途加入の参加は出来なかったが、中途加入が認められ9名が参加され136名となった。

補てん金については、飼料価格の急騰、枝肉価格の低迷等から粗収益が減少した為、乳用種・交雑種は毎四半期に補てん金が発動となり、肉専用種は第2・第3四半期に補てん金が発動され、合計398,749千円（14,189頭）が交付された。

平成20年度 肉用種肥育経営安定対策事業 補てん金交付状況

（単位：円、名）

区 分	品 種	補てん単価	頭 数	対象者数	金 額
平成19年 第4四半期 (1～3月)	肉専用種	0	211	25	0
	交雑種	28,700	1,243	63	35,674,100
	乳用種	22,700	1,454	30	33,005,809
	合計		2,908	118	68,679,900
平成20年 第1四半期 (4～6月)	肉専用種	0	234	25	0
	交雑種	33,000	1,457	61	48,081,000
	乳用種	22,700	1,642	29	37,273,400
	合計		3,333	115	85,354,400
平成20年 第2四半期 (7～9月)	肉専用種	36,700	372	23	13,652,400
	交雑種	33,000	1,486	56	49,038,000
	乳用種	22,700	1,760	29	39,952,000
	合計		3,618	108	102,642,400
平成20年 第3四半期 (10～12月)	肉専用種	59,500	579	36	34,450,500
	交雑種	33,000	2,182	65	72,006,000
	乳用種	22,700	1,569	32	35,616,300
	合計		4,330	133	142,072,800
合 計	肉専用種		1,396	109	48,102,900
	交雑種		6,368	245	204,799,100
	乳用種		6,425	120	145,847,500
	合計		14,189	474	398,749,500

3 肥育牛生産者収益性低下緊急対策事業（新規：（社）中央畜産会）

肉用牛肥育経営においては、枝肉価格の低迷や導入時のもと畜価格高に加え、配合飼料価格等の高騰により、乳用種肥育経営を中心に物財費すら賄えない状況となっている。このため、肉用牛肥育経営における収益性の著しい悪化に対処するため緊急的・時限的な特別支援により、肉用牛肥育経営体も安定と、肉用牛の再生産の確保に努めた。

参加申込者は129名、補てん金額は254,320千円（10,675頭）となった。

平成20年度肥育牛生産者収益性低下緊急対策事業 補てん金交付状況

（単位：円、名）

区 分	品 種	補てん単価	頭 数	対象者数	金 額
平成20年 第1四半期 (4～6月)	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	6,200	1,457	55	9,033,400
	乳用種	2,300	1,642	28	3,776,600
	合計		3,099	83	12,810,000
平成20年 第2四半期 (7～9月)	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	34,400	1,486	59	51,118,400
	乳用種	19,000	1,760	33	33,440,000
	合計		3,246	115	84,558,400
平成20年 第3四半期 (10～12月)	肉専用種	18,200	579	39	10,537,800
	交雑種	58,400	2,182	71	127,428,800
	乳用種	12,100	1,569	32	18,984,900
	合計		4,330	142	156,951,500
合 計	肉専用種		579	39	10,537,800
	交雑種		5,152	185	187,580,600
	乳用種		4,971	93	56,201,500
	合計		10,675	317	254,319,900

4 肥育牛経営緊急支援特別対策事業（5,000円事業）

（新規：（社）中央畜産会）

肉用牛肥育経営において、配合飼料価格安定制度の見直しに伴うさらなる収益性の悪化に対処するためには、生産性の向上等による経営の合理化及び体質強化並びに乳用種牛肉の需要拡大を緊急に推進する必要がある。このため配合飼料使用量の低減による生産性向上等の計画的な取組みに対し助成し、肉用牛経営の安定に努めた。

参加者は109名、補てん金額は23,580千円（4,716頭）となった。

平成20年度肥育牛経営緊急支援特別対策事業 補てん金交付状況

(単位：円、名)

区 分	品 種	補てん単価	頭 数	対象者数	金 額
平成20年 第2四半期 (7月～9月)	肉専用種	5,000	299	31	1,495,000
	交雑種	5,000	1,189	61	5,945,000
	乳用種	5,000	645	26	3,225,000
	合計		2,133	91	10,665,000
平成20年 第3四半期 (10月～12月)	肉専用種	5,000	441	41	2,205,000
	交雑種	5,000	1,574	67	7,870,000
	乳用種	5,000	568	25	2,840,000
	合計		2,853	95	12,915,000
合計	肉専用種	5,000	740	72	3,700,000
	交雑種	5,000	2,763	128	1,3815,000
	乳用種	5,000	1,213	51	6,065,000
	合計		4,716	186	23,580,000

5 畜産物価格補償業務

(1) 肉豚価格差補てん緊急支援特別対策事業（（独）農畜産業振興機構）

生産者自らが自主的に基金を積立て、肉豚価格の低落時にその基金を取り崩して、地域保証価格との差額を補てんし、養豚経営の安定を図った。

平成20年10月以降、肉豚価格の低落が続き、21年1月には基金が枯渇してしまった。

平成20年度肉豚価格差補てん緊急支援特別対策事業 補てん金交付状況

(単位：頭、円)

年 月	契約頭数	対象頭数	補てん単価	補てん金額
平成20年4月	43,645			
5月	43,365			
6月	43,343			
7月	43,518			
8月	43,525			
9月	46,734			
10月	51,484	50,197	45	169,414,875
11月	51,448	48,742	45	164,504,250
12月	50,873	49,846	30	112,153,500
平成21年1月	50,558	48,605	41	149,460,375
2月	49,273			
3月	48,701			
計	566,467	197,425		595,533,000

(2) 養豚経営緊急安定化特別対策事業（新規：（独）農畜産業振興機構）

新規対策事業として今年度に限り、収益性の改善を図るため、配合飼料の使用量の低減化を盛り込んだ平成21年度までの「養豚経営緊急安定化計画」を作成・実施する等の要件を満たしている生産者に対し、肉豚価格差補てん事業の発動と連動して、出荷頭数に応じて支援交付金150円／頭を交付した。

平成20年度養豚経営緊急安定化特別対策事業 補てん金交付状況
(単位：頭、円)

区分	対象戸数	対象頭数	補てん金額
平成20年(10月～12月)	109	144,448	21,667,200
平成21年(1月～3月)	109	137,984	20,697,600
計		282,432	42,364,800

6 種豚改良対策基金

指定種豚場を対象に原種豚農場及び種豚の認定により、品質の高い良質な豚肉を生産するための基礎となる純粋種豚の確保・改良を推進した。

7 政策要請活動

養豚生産者の組織への参加を呼びかけ、組織の強化と畜政活動への積極的な展開を図り、養豚生産者が考えている諸問題解決のため、生産者組織であるナイスポークチバ推進協議会との連携を図り、県・中央団体を通して関係官庁に陳情及び要請を行った。

VI 調査研究及び研修に関する事業

1 肉用牛生産効率化推進調査（乳用種ヌレ子生産費用等調査）

（（社）中央畜産会）

県下酪農経営農家14戸に対し乳用種ヌレ子生産について、生まれ落ちから10日齢までの哺育技術や費用等の実態調査を実施した。

2 国産牛肉需要拡大普及推進事業における産地ブランド牛肉実態調査

（新規：（社）中央畜産会）

（財）日本食肉消費総合センターの定める条件を満たす県下のブランド牛肉10銘柄を対象に、ブランド牛肉の定義や規格、流通販売に関する調査を行った。

（調査対象ブランド・千葉県）

ブランド名	推進主体
しあわせ絆牛	東日本産直ビーフ研究会
しあわせ満天牛	同上
千葉しあわせ牛	同上
千葉しおさい牛	千葉しおさい牛出荷組合
林牛	（株）林商店
八千代ビーフ	千葉北部酪農農業協同組合
そうさ若潮牛	そうさ若潮牛振興協議会
かずさ和牛	かずさ和牛肥育研究会
ナイスビーフ	ナイスビーフ研究会
みやざわ和牛	農事組合法人宮澤農産

3 改良増殖技術実態調査（（社）中央畜産会）

家畜改良を進めるにあたり、行政上必要な家畜改良頭羽数調査を、県畜産課並びに各地域農林業振興協議会等を通じて実施した。

4 畜産生産基盤育成強化対策推進事業（畜産経営の担い手育成に向けた経営支援の推進等）に係る経営支援活動の対象となった畜産経営の実態把握業務

（新規：（社）中央畜産会）

畜産協会の経営支援の対象となった経営事例について、収益性・生産技術に係る動向等を把握するとともに、指導用資料としてとりまとめを行うため、情報を収集（養豚3戸）した。

5 畜産生産基盤育成強化対策推進事業（畜産経営の担い手育成に向けた経営支援の推進等）に係る都道府県段階の支援活動に基づく経営改善内容とりまとめ業務

（新規：（社）中央畜産会）

畜産協会の経営支援による経営改善の内容と成果等を事例集として取

りまとめ、具体的な経営支援事例を対象に改善内容と支援内容等を把握（酪農1戸）した。

6 家畜排せつ物処理・利用に関するアンケート調査

（新規：国土交通省 関東地方整備局）

利根川流域別下水道整備総合計画の見直しにおいて、畜産系原単位の設定を行うにあたり、実態に即した客観性のあるデータを用いて設定する必要がある、このため、利根川流域内の畜産農家に対するアンケート調査を行い「浄化処理率」及び「排出率」を設定するための基礎資料を得るための調査を行った。

対象：乳用牛201戸、肉用牛121戸、養豚227戸

※利根川流域の畜産農家のみを対象とした

7 日本政策金融公庫調査・委託事業

（新規：日本政策金融公庫 東京支店）

公庫資金等の活用推進につながるための業務として、メニューとして「イ、の公庫資金に対する理解、活用を促進するための取組み」を選択し研修会、セミナーにおいてPRした。

- 1) 稲ホールクロップサイレージ利用推進研修会（参加者25名）
- 2) 高病原性鳥インフルエンザ防疫研修会（参加者101名）
- 3) 酪農経営セミナー（参加者37名）

8 民間活力を活用した畜産技術開発事業（新規：（社）畜産技術協会）

畜産農家本人が授精する形態の乳牛繁殖率低迷の原因調査を30戸で実施し、その結果を実績書にまとめた。概要は「畜産ネットワークちば」15号に報告した。また、一部分は養賢堂「畜産の研究」4月号に掲載した。

Ⅶ その他

1 千葉県畜産物消費拡大推進協議会関連事業

(1) 千産全消販売促進対策事業（県・公募事業）

多様化した消費者ニーズや社会環境の変化に適確に対応し、本県の特徴を活かし、県産畜産物を県内、首都圏へ積極的に売り込む団体3団体が結集し公募事業へ参加し、消費者へのPR活動を実施した。

事業費：1,993,000円（県の補助金996,000円）

(2) 千葉県産畜産物消費拡大推進事業

安全・安心等消費者ニーズに応える県産物の銘柄等を推進し「千葉ブランド」を県内・首都圏・に向け千産千消・千産全消の確立を目指している生産者団体（33団体）が船橋市船橋競馬場（船橋ふれあい広場）において千葉県畜産フェアを開催した。

また、他団体が開催したイベント等に積極的に参加しPR活動を実施した。

2 千葉県養蜂協会関連事業

千葉県養蜂協会との事務委託契約により、協会の執行事業に係る事務を取り扱った。

3 馬事畜産振興推進事業

(1) 平成20年10月11日、千葉県競馬組合が実施する「ふれあい広場」へ参加し、馬事畜産振興コーナーを設置し、NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンターの協力を得て船橋競馬場で生産された馬糞堆肥の無償配布並びに販売、これに合った花や野菜の育て方について説明するとともに、堆肥の使い方をより具体的に理解していただくため、花の販売をおこなった。また、ブックレット等の配布を行い地方競馬の普及啓蒙を図った。

(2) 平成20年11月21日、船橋競馬場において、千葉県馬事畜産振興協議会と協賛して、冠レース・千葉県畜産賞「三里塚特別」を実施し、優勝馬関係者に対して賞状並びに副賞を授与した。

当日は競馬ファンサービスの一環として、牛乳を先着1,000名にプレゼントした。

なお、副賞は千葉県産畜産物をPRするため、若潮牛・房総ポークCの食肉セット、千葉酪製乳製品セット、はちみつセットを提供した。

4 ナイス・ポーク・チバ推進協議会関連事業

養豚経営の安定強化と産業の振興を図るため、生産者自らの資金拠出による活動の柱である、県産（国産）豚肉の消費拡大活動、養豚経営安定強化のための政策要請活動に対し、協会として生産者の活動を支援するため事務を取り扱った。

5 千葉県自家検定推進協議会関連事業

原種豚の確保と能力の高い種豚の改良を担う生産者組織に対し、協会の執行事業関連事務を取り扱った。

6 ちば畜産レディースネットワーク関連事業

畜種を越えた畜産に携わる女性のネットワークとして、女性生産者をはじめとする県内農畜連獣医師、県普及員等の会員34名で構成されている。設立は平成19年3月。

平成20年9月に平成20年度総会を開催。平成20年10月、消費者との交流として「千葉県畜産フェア」への出展と畜産ウルトラクイズへの参加、自己研鑽のための研修会として平成20年12月、館山市須藤牧場にて消費者の受入現場を見学した。また、ネットワーク活動に伴う役員会（情報交換会）を3回（9月、10月、2月）実施した。

7 NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター関連事業

畜産に係わる生産者等への支援や畜産振興に向けた消費者等との交流を図るために設立したNPO法人の会員は、団体含めて47名となった。

当畜産協会が事業主体である下記事業の調査等について、その一部をNPO法人に委託し、または協力を得て実施した。

- ・人材活用モデル体制整備事業
- ・国産飼料資源活用促進総合対策事業（畜産生産性向上促進総合対策）
- ・民間活力を活用した畜産技術開発事業
- ・肉用牛生産効率化推進調査（乳用種ヌレ子生産費用等調査）

正味財産増減計算書総括表

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

(単位：円)

科 目	一般会計	特 別 会 計			内部取引消去	合 計
		肉用牛肥育経営 安定対策事業	肉用子牛生産者 補給金制度	畜産物価格 補償業務	種豚改良対策 基 金	
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
受取会費	9,034,300					9,034,300
受取事業収益	5,497,280					5,497,280
受取補助金	521,769,606	264,530,400	10,146,400	5,660,920		846,059,442
受取受託事業補助金	30,450,559		13,462,066	46,297,370		30,450,559
受取負担金	299,894,166					299,894,166
受取補助金		91,655,100	229,984,400			229,984,400
受取積立金		236,065				236,065
雑収益	897,470		30,132	650,708	34,326	91,655,100
基本財産運用益	326,648			23,012		1,998,002
特定資産運用益	162,499					23,012
基金取崩額	149,301					326,648
指定正味財産からの振替額		398,749,500	19,178,797	595,840,162		404,548,555
他会計からの繰入額			1,935,125			615,181,458
経常収益計	868,181,829	755,171,065	274,736,920	648,472,172	34,326	2,550,906,232
(2) 経常費用						
協会事業費	5,584,101					5,584,101
補助事業費	784,620,590	398,749,500	243,446,466	595,533,000		1,473,113,926
受託事業費	26,973,079			46,297,370		26,973,079
管理費	47,732,099		12,586,697	6,850,779	315	67,169,890
基金繰入額	4,000,000	356,421,565				360,421,565
他会計への繰出額	0		1,935,125			1,935,125
経常費用計	868,909,869	755,171,065	257,968,288	648,681,149	315	2,543,840,606
当期経常増減額	△ 728,040	0	16,768,632	△ 208,977	34,011	7,065,626
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
指定正味財産からの振替額						
他会計からの繰入額						
経常外収益計		0	0	12,358,740		12,358,740
(2) 経常外費用						
支払返戻金	8,800,000					8,800,000
他会計への繰出額						
経常外費用計	8,800,000	0	0	12,358,740	0	21,158,740
当期経常外増減額	△ 8,800,000	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 9,528,040	0	16,768,632	△ 208,977	34,011	7,065,626
一般正味財産期首残高	20,465,291	0	△ 66,092,528	9,710,480	30,335,029	△ 5,581,728
一般正味財産期末残高	10,937,251	0	△ 49,323,896	9,501,503	30,369,040	1,483,898